

「会」主催のスーパー堤防勉強会に 1110名の方が参加！ 「税金のムダ使い」「各党の区議も出席せよ」の声

安中茂作のスーパー川柳 第二弾

次期選挙
誰が転げるかスーパーボード。
安中茂作

9月3日(日)午後、スーパー堤防・街づくりを考える会主催の勉強会が、北小岩コミュニティ会館で開かれました。会場は百人の参加者であふれ、用意した資料が間に合わなくなるほどで、関心の高さがうかがわれました。

講師は、旧建設省(現・国交省)の土木研究所河川研究室で河川、堤防を研究してこられた西田祥文さんと、瑞江地区で長年、区民側から区画整理事業に取り組んでこられた堀達雄さんの二人。西田さんは「曲り角にある治水方式」、堀さんは「住民の対処法」などをレクチャー、その後、質疑応答が行われました。

講演に先立ち、8月23日(水)午後、日本テレビの報道番組「リアルタイム」で放映された「完成まで400年も 新堤防に六千三百億円の謎」をビデオで流し、改めてスーパー堤防は長期間、巨費を投じる事業・住民の理解を得られない計画だ、と再認識しました。

西田さんは、大都市周辺に人口、社会資産が集中したことをふまえ、1986年に建設大臣が超過洪水対策はどうあるべきか、を諮問したのがスーパー堤防の起源と説明し、水が堤防を乗り越えても決壊しない、がセールスポイントだが、実は、地権の保証をいながら、住民が引越している間に、堤防を造ってしまう巧妙な手口だ、と断じました。

また、200年に一度の洪水にも対応できる堤防というが、昨今は集中豪雨も頻発、雨の降り方も変わってきている。そのため無理に水を困うのではなく、治水の方向が変化してきた。江戸川流域では15箇所スーパー堤防が築かれているが、北小岩は江戸川区内でも高い地にはあり、北小岩を最後のスーパー堤防建設地としてはならない、と力説しました。

会館ロビーに貼られた勉強会案内ポスター



運営委員・事務局の皆さん
(写真左)



110名の参加者で一杯になった会場 (北小岩コミュニティ会館)

(質疑応答の要旨は裏面にあります)

一方、堀さんは江戸川区の「まちづくり」ニュースには、例として六つのQ&Aが載っているが四つが街づくりに関するもので、区画整理が目的なのではないか、とし、9月中にもう一回全体会合が予定されているのは、**住民を「スーパー堤防号」に乗せようとするつもりでは、としました。**

そして換地・減歩・清算金などの用語を解説、移転後、最後に清算金が決まるが、多大なお金を支払わねばならなくなるケースには、住民から大きな驚きの声が発せられました。

元の土地に戻ってきていても、耐火建築を指定されれば、その費用には補償はなく、ローン部分にも補償はない。

とにかく、おかしいと感じたら、早く声を出すことが必要だ、と促しました。